

はたち しせつ かんり ひつよう  
畑地かんがい施設の管理がなぜ必要か。

わたし す ちいき のうか ひと  
私たちが住んでいる地域では、農家の人たちが  
かまなしがわうがんと ちかいようくれんごう そしき つく  
「釜無川右岸土地改良区連合」という組織を創り、  
みんなでお金を出し合い、いつでも畑の野菜や果物に  
あんしん あんぜん ゆた みず とど しせつ てんげん  
安心・安全・豊かな水を届けるため、施設の点検  
せいび おこな  
・整備を行っています。  
げんざい しせつ つく だ うつく ちいき せいかつかんきょう  
現在、この施設が作り出す美しい地域の生活環境を  
まも ちいき そしき ひと きょうりよく かんり  
守るため、地域の組織や人たちと協力しながら管理を  
おこな  
行っています。



# 水の恵み

～畑地かんがい施設と農業用水～

しかし、この施設が作られてから約40年経過し、水を配分する施設や  
ちちゆう いた くだもの こめ つく  
地中のパイプが傷みはじめています。このままでは、おいしい果物やお米が作れなくなります。  
くに けん きょうりよく ちいき のうぎょう かんきょう まも しせつ ながも しぎょう  
そこで国と県が協力して、この地域の農業や環境を守るため、施設を長持ちさせる事業を  
おこな みず はいぶん すいろ いた しら なお  
行います。水を配分する水路やパイプの傷んだところを調べ、直していきます。  
(ストックマネージメントといいます。)



しせつ ながも ちいき く ひと  
施設を長持ちさせることは、地域に暮らす人たちの  
ゆた かっき せいかつかんきょう まも  
豊かで活気ある生活環境を守ることになります。  
わたし ゆた うつく ちいき まも  
私たちの豊かで美しい地域を守っていくために、  
はたち しせつ のうぎょうようすい わたし ちいき は  
畑地かんがい施設と農業用水が私たちの地域で果  
たしている働きについて皆さんに知ってもらい、  
のうか ちいき ひと きょうりよく まも  
農家と地域の人たちが協力して守っていくことが  
だいせつ  
大切ではないのでしょうか。



釜無川右岸地区管理体制整備推進協議会  
連絡先： 釜無川右岸土地改良区連合  
山梨県南アルプス市飯野 2815-5  
電話 (055)283-1856 FAX (055)283-4940  
E-mail midorinet-kamanashi@ilac.plala.or.jp

かまなしがわうがんちくはたち じぎょうがいようす  
**『釜無川右岸地区畑地かんがい事業概要図』**



いま ねんまえ えとしだい ちいき すいでん うるお  
 今から340年前の江戸時代に、この地域の水田を潤すために  
 とくしまへいざ えもん ちから きす とくしませぎようすいる こたいらう  
 徳島兵左衛門の力によって築かれた徳島堰水路は、その後台風  
 ひがいの ひがいの くに けん しちようそん ちいき ひと  
 などてたびたび被害を受けましたが、国や県や市町村と地域の人  
 たいへん どりよく しゅうり がえ まち  
 たちの大変な努力によって修理がくり返され守られてきました。  
 はたち じぎょう ようすいる みず いちぶ りよう ちようせいち  
 畑地かんがい事業はその水路の水の一部を利用して、調整池と  
 みず たくわ しせつ つく ちか う とお  
 いう水を貯える施設を作り、そこから地下に埋めたパイプを通して  
 わたし ちいき はたけ みず おく さくもつ あた  
 私たちの地域の畑に水を送り作物に与えています。  
 かまなしがわうがんとちちかいくれんごう しせつ みず はいぶん かんり  
 釜無川右岸土地改良区連合はこれらの施設や水の配分などの管理  
 おこな  
 を行っています。



とうしゆこう 頭首工



とくしませぎ 徳島堰



だいいちちようせいち 第一調整池



とうかつせいぎょ 統括制御



こうじ 工事



わたし ちいき とくさんぶつ  
**私たちの地域の特産物**



もも



すもも



さくらんぼ



ぶどう



かき

ちいき やくだ しせつ ようすい  
**地域で役立っている施設と用水。**

むかし つきよ や い さくもつ せいいく ひつよう みず ふそく わたし ちいき  
 昔、月夜でも焼けると言われ、作物の生育に必要な水がいつも不足していた私たちの地域の  
 はたけ みず とど くのうか ひと  
 畑にパイプで水が届けられるようになったため、農家の人たちはモモやサクランボやブドウなど  
 くだもの さいばい  
 の果物がたくさん栽培できるようになりました。

そのため、農地が荒れることもなく季節ごとにおいしい果物が採れ、美しい花が咲き、緑豊か  
 うるお かつき かんきょう わたし あた  
 で潤いと活気のある環境を私たちに与えています。



はな さ がつ  
 モモやスモモの花が咲きほこる4月には、  
 みなみ どうげんきょう たいかい おこな  
 南アルプス桃源郷マラソン大会が行わ  
 れ、全国から大勢の市民ランナーが参加し、  
 せんこく おおぜい しみん さんか  
 美しい景色の中を楽しみながら走っています。



だいいちちようせいち うえ いいおか こうえん りよう  
 第2調整池の上は飯丘スポーツ公園として利用  
 ゆうぐ やかんしょうめいしせつ こども あそびば  
 され、遊具や夜間照明施設があり、子供の遊び場  
 しょうんどうかい かいじょう  
 所、運動会の会場、ソフトボール、ゲートボール  
 れんしゅう たいかい かいじょう ちいき  
 ホッケーなどの練習や大会の会場として地域  
 ひと りよう  
 の人たちに利用されています。

はたち しせつ しょうぼうしせつ りよう  
 畑地かんがい施設には消防施設として利用  
 できるものもあり、かじ とき とうと じんめい ざいさん  
 できるものもあり、火事の時、尊い人命や財産  
 まも つか  
 を守ることに使われています。



# 釜無川右岸畑地かんがい事業概要

## 1 事業の沿革

この地区を代表する用水路は、江戸の住人徳島兵左衛門俊正によって開削された釜無川を水源とする約17kmに及ぶ徳島堰である。

徳島兵左衛門は釜無川右岸の新田開発と、韮崎市円野町から南巨摩郡富士川町（旧鯉沢町）まで運河を計画し、甲信駿三国を結ぶ舟運を開こうという遠大な計画をたて、寛文4年（1664年）幕府から開削の許可を受けて翌5年に工事に着手した。寛文7年には南アルプス市飯野南橋までの用水路を完成させたが、完成したばかりの用水路は水害により大きな被害を受け、兵左衛門は姿を消すこととなる。この復旧を甲府城代戸田周防守は地元の豪農矢崎又右衛門に命じ、寛文10年に全用水路を完成させた。

この堰の完成により新田が開発され農民の生活は飛躍的な発展をとげることになるが、御勅使川扇状地（原七郷とも呼ぶ）にはわずかな水しか届かず、その恩恵に浴するまでには至らなかった。

300年来の野呂川疎水の夢を実現させるため戦後、山梨県は総合開発の中で釜無川右岸開発計画をたて、昭和41年に農林省は国営事業として、徳島堰の改修、扇状地の畑地かんがい及び扇状地末端の排水改良を行う総合土地改良事業として着手し、県営、団体営を含めて昭和49年に完成させた。

現在、造成以来40年余りを経過し、施設の老朽化が進んだため、その機能保全と長寿命化対策として平成25年より国営、県営機能保全事業を実施している。

## 2 主要施設

工種	支配面積 (ha)	通水量 (m <sup>3</sup> /s)	延長(m)	構造	管理区分	施工区分
徳島堰頭首工	1,930		139	フローティングタイプ	徳島堰土地改良区	国営
徳島堰用水路	〃	7.96~1.36	16,644	コンクリート三面張	〃	〃
第1調整池	1,178	貯水量 15,200 m <sup>3</sup>	58.0×83.0×3.9	鉄筋コンクリート造	釜無川右岸 土地改良区連合	〃
管理室 (水位・水)	〃	Q=1,386	1ヶ所		〃	〃
国営 パイプライン	〃	〃	幹 14,672 支 4,262	φ1200~350 mm φ500~200 RC.PC.AC管	〃	〃
第2調整池	〃	貯水量 18,000 m <sup>3</sup>	79.2×78.2×3.9	鉄筋コンクリート 有蓋式	〃	県営
中央統括 制御室	〃	〃	1ヶ所		〃	〃
末端制御室	〃		11ヶ所		〃	〃
県営 パイプライン	〃		26,062	φ500~125 CIP.ACP.VP	〃	〃
小支線 パイプライン	〃		140,705	φ150~65 ACP.SGP.VP	〃	団体営
散水線 パイプライン	〃		997,880	φ75~30 VP	〃	〃
電磁弁	〃		2,083		〃	〃
スプリンクラー	〃		62,490	No.30タイプ	〃	〃
散水補助タンク	〃		122ヶ所	容量5 m <sup>3</sup>	〃	〃
給水筒	〃		210ヶ所		〃	〃